

平成 21 年度

## 病害虫発生予報第 3 号

平成 21 年 6 月 25 日

### 三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo>

## 目次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	8
4. 予察項目の見方	15
5. 今月のトピックス（カンキツかいよう病について）	16
6. 気象のデータ	17
7. おしらせ	19

## 1. 向こう 1 か月の予報と対策

### 1) 普通作物

イネでは、葉いもちの発生量は平年並、穂いもちの発生時期および発生量は平年並と予想されますので、早期発見と防除を心がけてください。紋枯病の発生時期および発生量は平年並、白葉枯病の発生量はやや少と予想されます。斑点米カメムシ、イネクロカメムシの発生量はやや多と予想されるので発生状況に注意してください。セジロウンカの発生時期および発生量は平年並、ツマグロヨコバイの発生量はやや少と予想されます。

### 2) 果樹

カンキツでは、黒点病の発生量はやや多と予想されますので、枯れ枝の除去等耕種防除も行ってください。ミカンハダニ、チャノキイロアザミウマの発生量は平年並、かいよう病（中晩柑類）の発生量はやや少、そうか病、かいよう病（温州みかん）の発生量は少と予想されます。

ナシでは、黒星病の発生量はやや少と予想されますが、今後の降雨に注意して、予防散布を実施してください。ハダニ類の発生量はやや少と予想されます。

ブドウでは、べと病の発生量はやや少と予想されますが、今後の降雨に注意して、予防散布を実施してください。

果樹カメムシ類の発生量は、やや少と予想されますが、カキ、ナシ（無袋栽培）では飛来を確認したら、防除を実施してください。

### 3) 茶

チャでは、チャノホソガの発生量はやや多と予想されるので発生状況に注意してください。チャノキイロアザミウマ、クワシロカイガラムシの発生量は平年並、炭疽病、カンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノコカクモンハマキの発生量はやや少と予想されます。

### 4) 野菜

イチゴでは、うどんこ病、炭疽病、ハダニ類の発生量は平年並と予想されるので、苗の下葉の整理後、病害虫の発生密度の低いうちに予防的に防除を実施してください。

ネギでは、ネギコガの発生量はやや多と予想されるので、他の微小害虫の防除と兼ね、防除効果の広い薬剤による予防防除に心がけてください。

## 2. 作物別の状況

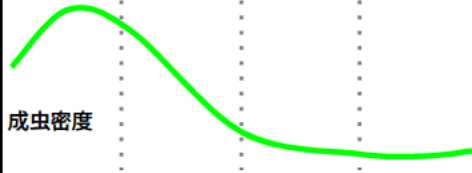
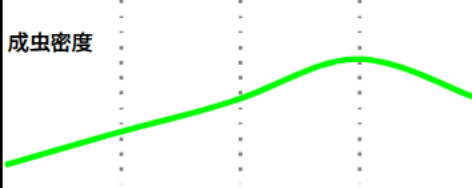


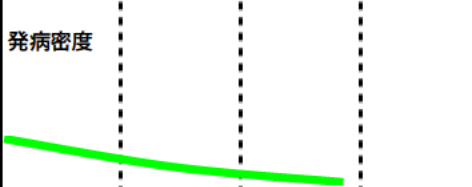
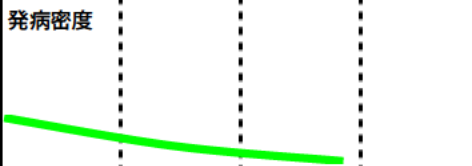
作物名	病虫害名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						6月		7月		
						下旬	下旬	中旬	下旬	
イネ	葉いもち	—	平年並	中	普通					1) 梅雨入り後、降雨が少ない状況でしたが、6月第4週の連続降雨に注意してください。 2) 薬剤耐性菌に注意してください。
	穂いもち	平年並	平年並	中	普通					1) 葉いもちが上位葉に多く発生すると、穂いもちへ移行しやすくなります。 2) 薬剤防除は穂ばらみ期から穂揃い期に、予防的に行ってください。
	紋枯病	平年並	平年並	小	普通					1) 幼穂形成期頃（穂肥時期）から発生が目立つようになります。 2) 水面に近い茎から感染しますが、薬剤防除によって病斑の上位葉への進展を阻止してください。
	白葉枯病	—	やや少	小	低					1) 浸水や冠水、台風によって、感染や発病が助長されます。 2) 「みえのゆめ」は弱い品種なので注意してください。
	斑点米カメムシ類	—	やや多	小	高					1) 常に水田周辺の除草を心がけてください。 2) 本田粒剤で防除する場合は、出穂期に散布してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項		
			平年比	平年比		程度	平年比	6月			7月	
								下旬	下旬		中旬	下旬
イネ	イネクロカメムシ	—	やや多	中	高					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 今の時期はイネの葉先が白く縮れる症状が現れます。</li> <li>2) 近年、被害で減収する圃場が増えていますので、発生が多い圃場では注意が必要です。</li> <li>3) 日中は株元に潜んでいるので、夕方や曇天の日に薬剤散布を行うと効果的です。</li> </ol>		
	ツマグロヨコバイ	—	やや少	中	低					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 当面、防除が必要な密度には達しないと思われます。</li> </ol>		
	セジロウンカ	平年並	平年並	小	低					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 例年、被害の発生はごく局所的であるため、多飛来が認められる場合は、病害虫防除技術情報等で臨時発表します。</li> </ol>		
カンキツ	そうか病	—	少	小	低					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 常発園、幼木園、高接ぎ更新園の温州ミカンでは、発生に注意してください。</li> <li>2) 果実への感染は梅雨末期頃までといわれています。</li> </ol>		
	黒点病	—	やや多	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 樹勢の衰弱により、枯れ枝が増加しています。枯枝の除去等耕種的防除を実施してください。</li> <li>2) 薬剤散布は前回の散布後に積算降水量が200～300mmに達した時を目安に実施してください。</li> </ol>		

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
			平年比	程度		6月	7月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	かいよう病	—	温州少 中晩柑やや少	小 小	低 普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 発病枝葉、果実は、見つけ次第剪除し処分してください。</li> <li>2) 高接樹や幼木では、ミカンハモグリガの防除を実施してください。</li> </ol>
	ミカンハダニ	—	平年並	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1葉当たりの雌成虫発生数が0.5～1.0頭程度を目安に防除してください。</li> <li>2) 薬剤は葉裏にもかかるように散布してください。</li> <li>3) 同一系統薬剤の連用は避けてください。</li> </ol>
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 寄生果率10%を目安に防除してください。</li> <li>2) 7月になり果実肥大が進むと果頂部で加害します。</li> <li>3) 圃場周辺のイヌマキ・サンゴジュ・チャ等が発生源となります。</li> </ol>
ナシ	黒星病	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 発病果及び発病葉は除去して、圃場外に持ち出し処分してください。</li> <li>2) 発病が確認される圃場では、すみやかに防除を計画してください。</li> <li>3) 薬剤散布を実施するときは薬剤をていねいに散布し、同一系統薬剤の連用を避けてください。</li> </ol>
	ハダニ類	—	やや少	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1葉当たり寄生数が1～2頭で防除を実施してください。</li> <li>2) 7～8月に密度が高くなります。徒長枝での発生にも注意してください。</li> <li>3) 同系統薬剤の連用は避けてください。</li> </ol>

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項							
						6月		7月									
						下旬	中旬	下旬	中旬								
ブドウ	べと病	—	やや少	小	普通					1) 降雨が連続すると、病徴が急速に進展するので、葉裏に病斑を認めたら直ちに薬剤を散布してください。 2) 降雨の合間に防除を計画してください。 3) 被害葉及び被害落葉は感染源となるので圃場外に持ち出して処分してください。 4) 同一系統薬剤の連用を避けてください。							
						果樹共通	カメムシ類	—	やや少		小	普通					1) 局所的に密度が高まるときがあります。カキ、ナシ（無袋栽培）では、まとまった飛来を確認したら、防除を実施してください。 2) 中山間地や昨年多発した地域では、注意が必要です。 3) 発生が見られない圃場では、防除の必要はありません。
													チャ	炭疽病	—	やや少	
チャ	カンザワハダニ	—	やや少	小	普通					1) 地域や茶園によって発生の差が大きく異なります。 2) 多発すると防除が困難なので、初期の防除が重要です。 3) 世代交代が早く、薬剤に対する抵抗性を獲得しやすいため、同一系統の薬剤の連用を避けてください。							
						チャ	チャノホソガ	—	やや多		小	普通					1) 幼虫の孵化直後が防除適期です。脱皮阻害剤を使用する場合は、卵期が防除適期で少し早めです。 2) 一番茶摘採後、深刈り更新等を行なった圃場では、巻葉や次世代の発生に注意してください。



作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
			平年比	程度		6月	7月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	チャノミドリヒメヨコバイ	—	やや少	小	普通					1) 三番茶の生育期は発生しやすい時期なので2葉期までに防除が必要です。
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	中	普通					1) 三番茶期は発生および被害が多いので、2葉期までに防除が必要です。
	クワシロカイガラムシ	—	平年並	小	普通					1) 第1世代防除が実施できなかった圃場では、第2世代幼虫発生期の7月下旬頃の防除を計画してください。 2) 防除適期は、孵化最盛期から5~7日後です。 3) 多発圃場では深刈り更新と防除を組み合わせると効果的です。 4) 被覆栽培など第一世代の防除ができない場合は、越冬世代の防除を行きましょう。
	チャノコカクモンハマキ	—	やや少	小	低					1) 若齢幼虫期に防除してください。 2) 二番茶後に刈り落としを行うところでは防除の必要はありません。 3) 一番茶摘採後に深刈り更新等を行なった圃場では、発生に注意して防除を計画して下さい。
イチゴ	うどんこ病	—	平年並	中	普通					1) 薬剤散布は、葉かき後の予防に重点をおきますが、発病を認めたときは、集中的に散布して感染の拡大を防いでください。 2) 葉裏から発生しやすいので、薬液が葉裏にかかるよう丁寧に散布します。

作物名	病虫害名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項		
			平年比	平年比		程度	平年比	6月			7月	
								下旬	中旬		下旬	中旬
イチゴ	炭疽病	—	平年並	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>病原菌の発育適温は28℃前後で、高温を好みます。</li> <li>これからの高温期にかけて、葉かき後の定期的な防除と、降雨後の防除を徹底して行います。</li> <li>薬剤散布は、株元まで十分かかるよう、畝やベンチの両側からも散布します。</li> <li>灌水は、水滴が跳ね返り茎葉に当たらないようにしてください。(チューブ灌水かやさしく丁寧な手灌水)</li> </ol>		
	ハダニ類	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>親株床、育苗床周辺の環境を整理し雑草を管理するとともに、エダマメ等ハダニ類の好む植物を作らないようにしてください。</li> <li>葉かき後の定期防除時に、葉裏を中心に丁寧に薬剤を散布します。</li> <li>葉かき後の残渣は圃場外で確実に処分してください。</li> <li>抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。</li> </ol>		
ネギ	ネギコガ	—	やや多	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>幼虫が葉の内部に潜るので、潜入防止のため発生の初期から防除しましょう。</li> <li>6月以降ネギアザミウマ等微小害虫の被害が拡大しているので、防除効果の広い薬剤による、効率のよい防除を心がけましょう。</li> </ol>		

### 3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	葉いもち	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月19日発表)によると、曇雨天は6月第4週には多く(+)、その後は平年並(±)、気温は7月第1半旬まで高いか低くない(+) 予想 ( + )</p> <p>2) いもち病発生予察システム(BLASTAM、6月23日現在)によると、感染好適条件の全県的な出現は無 ( - )</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、本田における発生圃場率0%(平年1.2%)と少の傾向 ( - )</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は無 ( - )</p> <p>考察： 現在まで発生条件が揃っていませんでしたが、今後の気象条件を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	穂いもち	平年並	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月19日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 ( ± )</p> <p>2) 水稻生育予測システム(4月下旬移植コシヒカリ、6月24日現在)によると、出穂期は、平年並の予想 ( 発生時期 ± )</p> <p>3) 葉いもち発生量は平年並の予想 ( ± )</p> <p>考察： 水稻の生育状況から発生時期は平年並、今後の気象条件を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	紋枯病	平年並	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月19日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 ( ± )</p> <p>2) 農業研究所作況試験田(コシヒカリ・4/24移植、移植50日目)によると、葉齢は平年並、茎数は多の傾向 ( 発生時期 ±、発生量 + )</p> <p>3) 昨年8月の巡回調査圃場における平均発病株率は9.3%(平年13.3%)と少であったため、1圃場あたりの越冬菌核量は少と予想 ( - )</p> <p>考察： 水稻の葉齢の進展状況から発生時期は平年並、茎数が多いために感染の機会が増えるものの、感染源となる越冬菌核量は少ないと予想され、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	白葉枯病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 4月下旬の移植以降、県内において日降水量100mm以上の降雨があったのは1日のみ(鳥羽;5月7日、115.5mm) ( - )</p> <p>考察： これまでのところ激しい風雨や冠水は少ないので、発生量はやや少と考えます。</p>



作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	斑点米カメムシ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(松阪市・4月第1半旬~6月第4半旬)では、誘殺数はイネホソミドリカスミカメ99頭(平年13.1頭)と多、アカスジカスミカメ16頭(平年6.6頭)とやや多、その他(ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、イネカメムシ)は未飛来で平年並(+)</p> <p>2) 巡回調査(6月第2週)では、畦畔イネ科雑草すくい取りによる、斑点米カメムシ類成幼虫の発生地点率43.0%(5年平均28.4%)とやや多の傾向(+)</p> <p>考察: 予察灯および巡回調査結果から、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	イネクロカメムシ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(松阪市・4月第1半旬~6月第4半旬)では、誘殺数は水田位置18頭(平年5.6頭)と多、畑位置196頭(平年133頭)と多(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発生圃場率8.1%(平年4.7%)と多、25株当たり虫数0.02頭(5年平均0.09頭)と平年並の傾向(+)</p> <p>3) 一般圃場では発生量は無~やや多(概して並)(±)</p> <p>考察: 予察灯および巡回調査結果を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	ツマグロヨコバイ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(4月第1半旬~6月第4半旬)では、誘殺数は松阪市1頭(平年6.2頭)、紀北町2頭(平年0.3頭)、伊賀市0頭(平年0.1頭)、および御浜町(4月第1半旬~6月第3半旬)で0頭(平年2.9頭)と概してやや少の傾向(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、払い落とし成虫数は0.1頭(平年0.2頭)とやや少(-)</p> <p>3) 一般圃場では発生量は平年並に少ない傾向(±)</p> <p>考察: 予察灯および巡回調査結果を重視して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	セジロウカ	平年並	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(県内4か所)では、6月20日現在で未飛来(松阪市・平年初飛来7月6日)(発生時期±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、払い落とし成虫数は0頭(平年0.06頭)と平年並の傾向(±)</p> <p>3) ウンカ飛来状況(JPP-NET)によると、九州では6月中旬まで多飛来は無(-)</p> <p>考察: これまでの飛来状況から、発生時期は平年並、また当面は密度が大きく上昇することはないと予想されるので、発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	そうか病	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月19日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多く、7月第1半旬までの気温は低い予想(±)</p> <p>2) 県予察圃(6月中旬)では、発病葉率21.3%(平年53.9%)と少の傾向、発病果率31.9%(平年49.0%)とやや少の傾向(-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、病斑は未確認(平年春葉発病度0.4)(-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して少)(-)</p> <p>考察: 急増する要因はなく、予想発生量は少と考えます。</p>
	黒点病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月19日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多く、7月第1半旬までの気温は低い予想(±)</p> <p>2) 着果過多等による樹勢の低下から、感染源となる枯れ枝は多い状況(+)</p> <p>考察: 今後の気象条件を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	かいよう病	-	温州 少 中晩柑 やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月19日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多く(±)、7月第1半旬までの気温は低い(+) 予想(+)</p> <p>2) 県予察圃における果実での初発は、6月10日(平年6月12日)とやや早(-)</p> <p>3) 県予察圃(6月中旬)では、発病葉率2.2%(平年9.8%)、発病果率0%(平年1.4%)と少の傾向(-)</p> <p>4) 巡回調査圃場(6月第2週)では、新葉における発病は温州みかんでは認められず、中晩柑では平均発病度0.7とやや少の傾向(-)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量はやや少~平年並(概してやや少)(-)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、今後の増加を考慮して予想発生量は温州みかんで少、中晩柑類でやや少と考えます。</p>
	ミカンハダニ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月19日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多く(±)、7月第1半旬までの気温は低い(-) 予想(-)</p> <p>2) 県予察圃(6月中旬)では、100葉当寄生虫数は、無防除区で27.8頭(平年20.9頭)、防除区で1.1頭(平年11.8頭)と少の傾向(-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、新葉における平均寄生葉率は3.8%(平年10.1%)と少、1葉当平均寄生虫数は0.06頭(平年0.60頭)とやや少の傾向(-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並(±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並と考えられ、大きな増減の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃(6月上旬)では、粘着トラップへの誘殺数は0.4頭(平年0.6頭)と平年並の傾向(±)</p> <p>2) 県予察圃(6月中旬)では、100果当たり寄生虫数は1.7頭(平年1.3頭)と平年並の傾向(±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、被害果は未確認(-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して平年並)(±)</p> <p>考察: 一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
ナシ	黒星病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月19日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多く(±)、7月第1半旬までの気温は低い(-)予想(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、平均発病葉率1.2%(平年0.4%)とやや多の傾向(+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少)(-)</p> <p>考察: 一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	ハダニ類	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月19日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多く(±)、7月第1半旬までの気温は低い(-)予想(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、平均寄生葉率は0%(平年1.4%)と平年並の傾向、1葉当平均寄生虫数は0頭(平年0.07頭)と少の傾向(-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少)(-)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられ、今後の気象条件を考慮しても、予想発生量はやや少と考えます。</p>
ブドウ	べと病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月19日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多く(±)、7月第1半旬までの気温は低い(-)予想(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発病は未確認(平年発病葉率0.0%)(±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して少)(-)</p> <p>考察: 今後の増加を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹 共通	カメムシ類	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町:6月1日~6月10日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 54頭(平年131頭)と少の傾向、ツヤアオカメムシ 37頭(平年47頭)と平年並の傾向 (-)</p> <p>2) 予察灯(畑・松阪市:4月1日~6月15日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 241頭(平年436頭)とやや少、ツヤアオカメムシ 144頭(平年86頭)と多 (±)</p> <p>3) フェロモントラップ(4月1日~6月16日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で325頭(平年482頭)とやや少、中間地(津市白山町二本木)で451頭(平年716頭)と少、平坦地(松阪市嬉野川北町)で32頭(平年112頭)と少 (-)</p> <p>4) 巡回調査圃場(6月第2週)では、圃場への飛来は未確認 (-)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は少~やや多(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 今後、一部の果樹園には飛来する可能性はあると考えられますが、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	炭疽病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月19日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多く(±)、7月第1半旬までの気温は低い(+) 予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発病葉数は0.2葉(平年0.67葉)とやや少の傾向 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して少) (-)</p> <p>考察: 現在の発生は少ですが、気象条件を考慮して今後の発生はやや少と考えます。</p>
	カンザワハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月19日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多く(±)、7月第1半旬までの気温は低い(-) 予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃(5月中旬~6月中旬)では、寄生葉率は1%(平年25.2%)、1葉当たり寄生頭数は0.14頭(平年値1.23頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、新葉寄生率は3.3%(平年値7.02%)と少、1葉当たり寄生頭数は0.03頭(平年値0.287%)とやや少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 現在の発生量から判断すると予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノホソガ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃(6月第1半旬~第4半旬)では、フェロモントラップ誘殺数は4,487頭、(平年値3,193.8頭)と多(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、1㎡当たり巻葉数は、0.3(平年値0.21/㎡)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現在の発生量は平年並ですが、成虫発生量が増加しているので、予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノミドリヒメ ヨコバイ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃(6月第1半旬~第4半旬)では、粘着吸引トラップ捕殺数は7頭(平年値6.8)と平年並(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、たたき落とし虫数は0.7頭(平年値1.23頭)とやや少(-)</p> <p>3) 一般圃場は、発生は少~平年並(概して少)(-)</p> <p>考察: 現在の発生量はやや少で、大きな増減の要因がないので、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノキイロアザ ミウマ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃(6月第1半旬~第4半旬)では、粘着吸引トラップ捕殺数は2130頭(平年値2070)と平年並(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、たたき落とし虫数は6.0頭(平年値14.9頭)と少(-)</p> <p>3) 一般圃場での発生はやや少~並(概して平年並)(±)</p> <p>考察: 現在の発生量は平年並で、大きな増減の要因がないので、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	クワシロカイガラ ムシ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場(6月第2週)では、雄マコ寄生株率は、9.8%(平年値16.3%)と少(-)</p> <p>2) 一般圃場では、発生は少~平年並(概して平年並)(±)</p> <p>考察: 現在の発生量から判断すると、第2世代予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノコカクモン ハマキ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃(6月第1半旬~第4半旬)では、フェロモントラップ誘殺数は、61頭(平年値132.5頭)と少(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、m<sup>2</sup>当たり巻葉数は0.6(平年値0.66)と平年並の傾向(+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生は平年並(±)</p> <p>考察: 現在の発生量はやや少で、大きな増減の要因がないので、予想発生量はやや少と考えます。</p>
イチゴ	うどんこ病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月19日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多く(±)、7月第1半旬までの気温は低い(-)予想(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発病株率7.5%(5年平均13.3%)やや少の傾向(-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生は平年並~やや多(概してやや多)(+)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	炭疽病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月19日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多く(±)、7月第1半旬までの気温は低い(+ )予想(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発病株率0%(平均0.02%)と平年並の傾向(±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生は無~平年並(概してやや少)(-)</p> <p>考察: 現在の発生量はやや少ですが、気象要因を考慮して、平年並と考えます。</p>



作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	ハダニ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月19日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多く(±)、7月第1半旬までの気温は低い(-)予想 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、寄生株率4.7%(5年平均6.4%)とやや少の傾向 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生は平年並 (±)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
ネギ	ネギコガ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場(6月第2週)では、被害葉率2.2%(平年0.05%)とやや多の傾向 (+)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(5月5半旬~6月4半旬)では、誘殺数は569頭(平年168頭)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場は、発生は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状はやや多と考えられ、大きな増減の要因はなく、予想発生量はやや多と考えます。</p>

## 4. 予察項目の見方

### 1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6
評価	早	やや早		平年並				やや遅		遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

	平年値 ↓					
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていればよいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

### 2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

（±）：平年並の要因

（+）：発生量増加または発生時期遅延の要因

（-）：発生量減少または発生時期早期化の要因

## 5. 今月のトピックス 「カンキツかいよう病について」

本病は各種のかんきつ類に発生する細菌性の病気です。温州みかんは比較的かかりにくいですが、レモン、ネーブル類、カラといった品種では、しっかりとした対策が必要です。

各種かんきつ品種のかいよう病に対する感受性

感受性	品種名
高	レモン、ネーブル類、カラ
中	甘夏類、セミノール、はるみ、不知火、せとか
低	温州みかん、ユズ

三重県では近年発生は少ない傾向です。春に強風を伴う雨があり、台風の影響が多かった平成14年には発生が多く見られました。



越冬病斑

新葉に多発した初期病斑

### ◆被害の様子◆

病斑部は始め白色の小さなカサブタ状ですが、後に拡大して褐色の大きな病斑になります。被害が激しいときには、枝にも病斑が発生し、葉の病斑と共に次年の発生源になります。

### ◆伝染経路と発病条件◆

病原菌は葉や枝の病斑部で越冬しています。本病は、風雨によって、傷や気孔から組織内に病原菌が侵入して発病します。春に温度が高く、強風を伴った降雨があると、急激に発生が拡大し、春芽や幼果実で発生することがあります。また、9～10月頃の台風来襲により、夏秋梢や果実で発生、激発することがあります。夏芽、秋芽にミカンハモグリガの被害があると、発病しやすいです。



激発した果実病斑（ネーブル） ミカンハモグリガ（矢印）の被害と病斑

### ◆防除のポイント◆

- (1) 発病しやすい品種では、発芽前の銅剤による防除を必ず実施します。
- (2) 大雨や台風、長雨が予想される場合は、予防散布を実施します。また、感染しやすい品種では、天候が回復しだい再度薬剤を散布します。
- (3) 病斑がある葉や枝などは発生源となるので、剪定時などに切除して、粉碎等して処理します。
- (4) 感受性の高い品種を栽培する場合、生け垣、ネットなどの恒常的な防風対策を行います。
- (5) 苗木、窒素過多の樹は、発病しやすいので、特に注意が必要です。

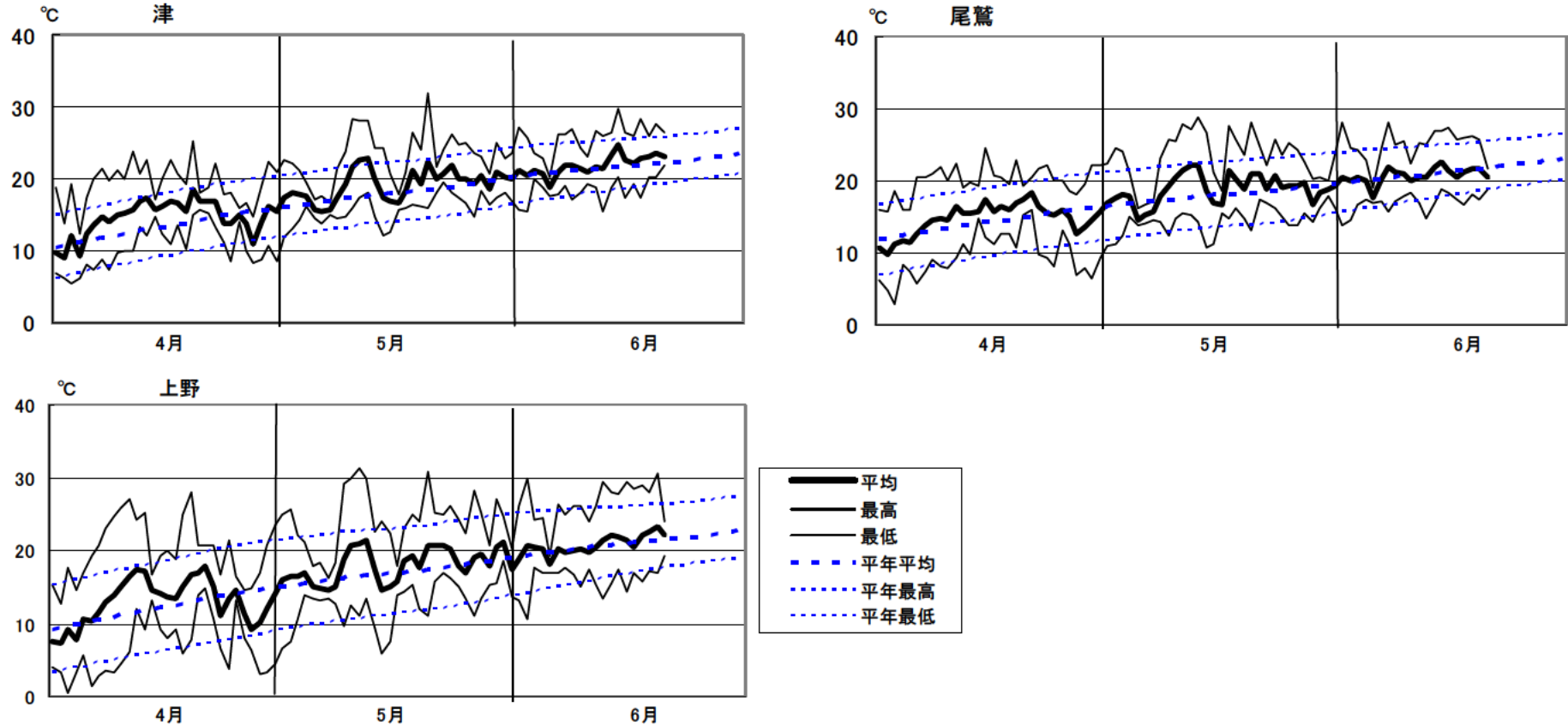
## 6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 21 年 6 月 19 日 名古屋地方気象台発表)

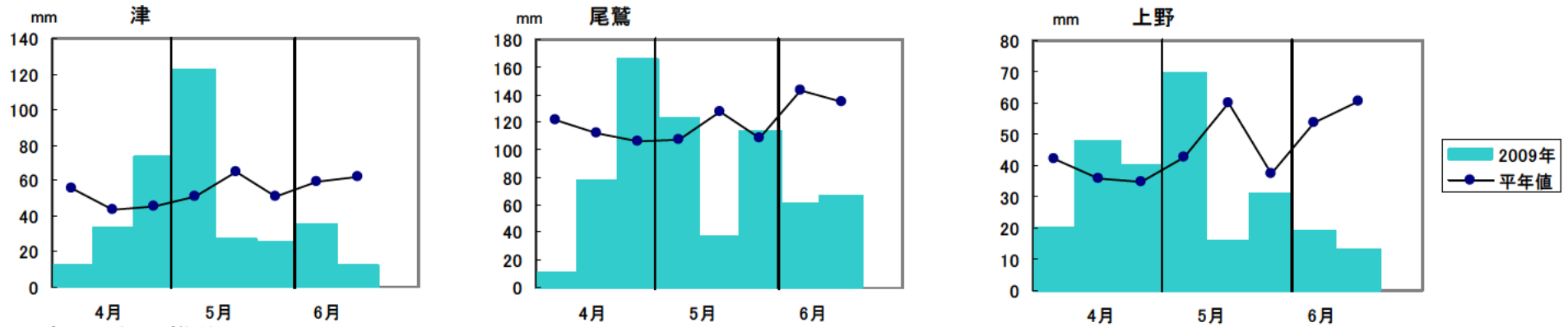
東海地方の向こう 1 か月は、平年と同様に梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。

1 週目 (6 月 20 日～26 日)	期間のはじめは晴れる所がありますが、その後は気圧の谷や前線の影響により曇りで雨の降る日が多いでしょう。	晴れ日数の平年値 約 2 日
2 週目 (6 月 27 日～7 月 3 日)	平年と同様に梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多い見込みです。	同 約 2 日
3～4 週目 (7 月 4 日～17 日)	平年と同様に梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多い見込みです。	同 約 6 日

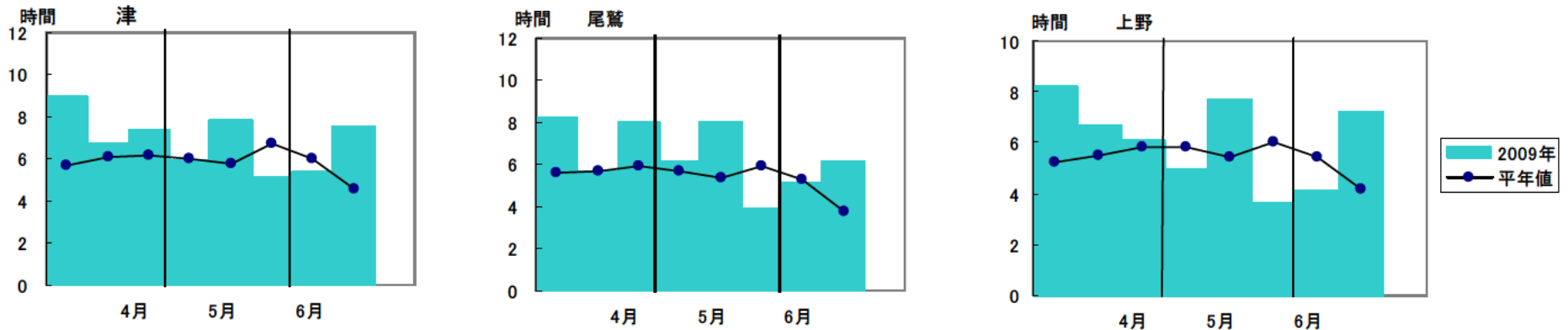
気温の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成)



降水量の旬別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成)



日照時間の旬別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成)





## 7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

### 1) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回 4月23日(発表済み)	第2回 5月28日(発表済み)
第3回 6月25日(今回)	第4回 7月23日(木)
第5回 8月27日(木)	第6回 10月22日(木)
第7回 3月18日(木)	

### 2) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

### 3) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

[http://www.mate.pref.mie.jp/Bojyosyo/files/h21yohotebiki\\_.pdf](http://www.mate.pref.mie.jp/Bojyosyo/files/h21yohotebiki_.pdf)

### 4) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

### 5) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>